

ご利用方法・利用料金の目安

本共用プラットフォームで行われる研究（分析）は、プロジェクト研究、共用プラットフォーム3機関との共同研究、ベンチャー企業を介した受託分析の3種類です。それぞれの利用区分の内容を下表に示してあります。

・利用区分の内容

利用区分	対象者	分析種類	利用機器	利用料金	料金負担	申請
プロジェクト研究	どなたでも利用可能	資料1	資料2	資料3	全額負担 1)	公募期間中のみ申請可
共同研究					一部負担 2)	随時申請可
受託分析	(準備中) 横浜市立大学と契約している受託分析担当企業に直接お問い合わせください。					

1) 利用者が利用料金を全額負担し研究を主導します。PF では主に技術的な支援を行います。

2) 利用者と PF メンバーが対等な立場で共同研究します。利用料は両者で分担します。

・利用の流れ



・利用申請の方法

本ウェブサイトより申請書の様式をダウンロードし、必要事項を記載の上、下記のメールアドレス

スにお送りください。 送り先アドレス：masspf.jp@gmail.com

• 申請書の様式

共同研究申請書：(form_1.docx) [ダウンロード](#)

プロジェクト研究申請書：(form_2.docx) [ダウンロード](#)

• 利用取扱要領 質量分析装置群共用に関する取扱要領については、別紙をご覧ください。

([handling_instructions.pdf](#))

• 利用料金

利用料金は、下記のような目安を設けましたが、研究の内容によっては増減する可能性があります。なお、現在、文部科学省から臨床 MS-PF の人件費と機器の保守管理費などで助成を受けていますので、その分、利用者のご負担は軽減されます。詳細については、お問い合わせ下さい。

(利用例1) 組織・細胞等の試料から目的タンパク質を同定したい。

組織・細胞等の試料からクルードなタンパク質を抽出し、電気泳動やカラムワークにより目的タンパク質を分離精製します。電気泳動で単離されたバンド/スポット、あるいはカラムワークで精製されたタンパク質をトリプシンなどのプロテアーゼで処理し、得られた断片ペプチドを逆相高速クロマトグラフィーで分離濃縮しながら質量分析装置で測定します。測定により得られたペプチドの質量、およびフラグメントイオンのスペクトルをデータベース検索することにより目的タンパク質を確実に同定します。

• LC-MS/MS を用いたタンパク質同定

内容：



利用料金：49,500 円/3 回測定/試料*

試料量：充分量ある場合は同一試料を複数回測定し、より確かな解析結果にします。

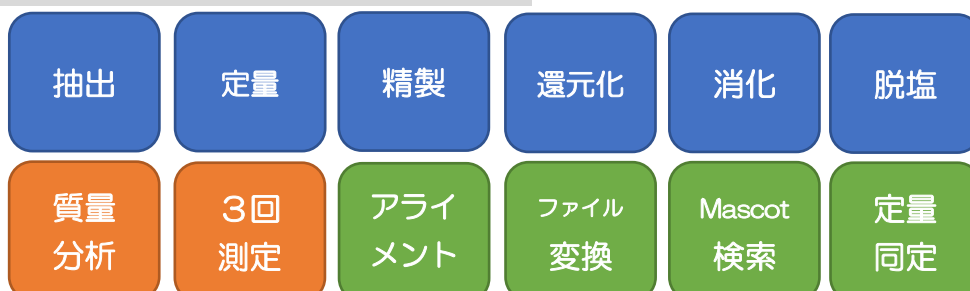
所要日数：作業を始めてから2日半程度。

(利用例2) 組織・細胞等の試料からクルードなタンパク質を網羅的に同定したい。

組織や細胞培養上清等から抽出した粗精製タンパク質画分に含まれるタンパク質を網羅的に同定します。私たちのショットガン分析法では血液一滴から約 3,000 種類のタンパク質を一度に同定することができます。また、私たちのリン酸化ペプチド濃縮精製法で前処理した後に、ショットガン分析すると 1 回の分析で数百～数千のリン酸化ペプチドと、それらのリン酸化部位を同定することができます。

(a) LC-MS/MS を用いたショットガン分析

内容：



利用料金：53,000 円/3 回測定/試料*

所要日数：作業を始めてから3日程度。

(b)リン酸化タンパク質のショットガン分析

内容：



利用料金：60,000 円/3 回測定/試料*

所要日数：作業を始めてから4日程度。

(利用例3) 組織・細胞等の試料間でタンパク質プロファイルを比較定量したい。

iTRAQ 等の安定同位体標識法では、1 回の分析で処理できる試料数に制限があります。そこで、標識処理を行わず試料数に制限ない状態でショットガン分析を行い、得られたデータを定量解析します。タンパク質の同定数を上げるため、試料を分画して分析することもできます。

(a)非標識法によるタンパク質発現・定量解析

内容：



利用料金：102,200 円/6 回測定/2 試料*

所要日数：作業を始めてから5日程度。

(b)リン酸化タンパク質の定量解析

内容：



利用料金：110,500 円/6 回測定/2 試料*

所要日数：作業を始めてから6日程度。

※血清・血漿試料は、別途利用料金（2万円程度/試料）が追加される場合があります。